



現代建築

ソウルの建築は奇抜でグチャグチャ。ザハでさえ大人しく、ペローは地下に隠し、サムソンは三人の巨匠で消し合う。



伝統建築

軒がピンと跳ねた両班屋敷。90%が集合住宅に住むソウルで木造戸建は超高級。でも両班屋敷が並ぶニュータウンも…



セミナー

韓国建築都市研究所KICTで韓国のゼロエネ建築と室内空気環境対策のレクチャーを受け、KICTのZEBモデル棟を見学



グルメ

初日の懇親会では豪快に海鮮鍋。2日目は韓定食で12品の料理にビックリ。でも最高のグルメは冷麺でした。

# 韓国2泊3日の弾丸視察

南雄三ツアー番外企画 2017 12/6-8

## オンドル～ZEBへ、両班屋敷～アパートへ

やんばん



KICTの先生方と記念写真 後ろはZEBモデル実験棟

2017年の師走に南雄三ツアー番外編として韓国ツアーを実施しました。外気清浄機メーカー・トルネックスの松井周生社長から、韓国建築都市研究所（KICT）のYun Gyu Lee先生を紹介していただいたことの縁ではじまったソウル視察。どうせ行くなら寒い12月に…ということで忙しい師走に2泊3日の弾丸ツアーとなりました。北朝鮮のミサイル不安で参加者が10名に足りず、久し振りに団長の私が添乗員。誰よりも自分勝手な添乗員はガイドさんと韓国ドラマの話で盛り上がり放題。参加者の皆様…お許してください。それでも内容は超充実。初日はソウルの現代建築を3ヶ所視察。ゴテゴテに自己主張の強い建築が目立つソウルではザハでさえ大人しくみえます。2日目は伝統建築。北村で両班（やんばん）屋敷をみて、韓屋のつくりとオンドルを勉強しました。ソウルは90%が集合住宅に住み、戸建住宅は高値の華。それでも恩平ニュータウンでは伝統的木造戸建住宅の団地が開発中。そこで建ち並ぶ韓屋の家並をみました。まるで映画のセットのようで異様ですが、堂々として今の家よりずっとイイ。3日目はKICTを訪ね、三人の研究者から省エネ、シックハウス法のレクチャーを受けた後で、最初の韓国ゼロエネ建築のモデル棟を見学しました。

12/6	羽田→金浦空港 KE2712 9:45 12:15	現代建築視察：●梨花女子大ECC(ドミニク・ペロー)、●東大門デザインプラザ(ザハ・ハディド)、●サムスン美術館LEEUM(レム・コールハース、ジャン・ヌーヴェル、マリオ・ボッタ) ※夜はソウルの普通の居酒屋で豪快に海鮮鍋の懇親会
12/7	ソウル市内 専用バス	伝統建築視察：北村・白麟済家屋、北村文化センター、コ・ヒドン家屋、仁寺洞で昼食、スヨンサンバンで伝統茶、恵化洞住民センター、武漢園、恩平ニュータウン ※夜は自由行動
12/8	金浦空港→羽田 KE2709 16:20 18:35	韓国建築都市研究院（KICT）で省エネ・換気セミナー KICT: <a href="http://www.kict.re.kr">www.kict.re.kr</a> 先生方と一緒に近くの焼き肉屋でブルコギ昼食の後、帰国

現代建築



東大門デザインセンター  
2014 ザハ・ハディド



梨花女子大ECCキャンパス  
2008 ドミニク・ペロ-



サムソン美術館 LEEUM  
2004 マリオ・ボッタ、レム・コールハース、ジャン・ヌーヴェル



朝鮮張り最近私の設計では朝鮮張りを実践しているが本物をみた。端部の板に鍵型の切り欠きがあるのは何故か？

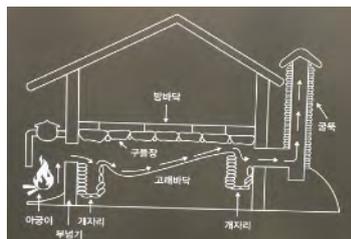


韓屋 北村文化センター

韓屋は門（玄関）を入ると庭があり、各部屋も庭に面している。庭は植栽（柑橘類が主）のある部分は外部に面した処だけで、部屋に面した部分は水はけのよい砂利である。庭は部屋の一部であり、行事がある時は庭で行う。韓屋を特徴づけるものには庭の他に「縁側（テマルジャン）」があって、外の人と縁側で対応したりする。また木造で、腐らないように石の上のっている。地下はなく、石の基壇の上に家をつくる。木組みで釘を一切使わず、補修しやすいので、腐れば新しい材に取り替える。もう一つの特徴は貯水槽があることで、初期消火の役目をもつ。韓屋に大火はなかったという。



恩平（ウンピョン）ニュータウンには韓屋の住宅団地が開発中である。最近韓屋の建築がブームだとい、2014年から開発がスタートしている。韓屋の長所は生かし、短所の高コストを抑えることがコンセプトになっている。



オンドル 竈（かまど）で煮炊きする煙が床下の板石（クドゥルジャン）を温めた後、煙突から出ていく暖房方式。三国時代以前から使われており、炊事や暖房を同時にできて効率的である。オンドルはブノムキ（焚き口の後ろ壁）とケジャリ（煙を留めておくための煙道の突き当たりに深く掘った横溝）を通じて、熱気を囲い込む方法で、煙がすぐ煙突からでてしまう西洋のペチカより熱効率が高い。



省エネ、室内空気質対策、ゼロエネセミナー at KICT

韓国ではパリ協定で全体で37%、建築では18.1%のエネルギー消費削減が求められた。2025年には全ての新築でゼロエネ（家電を除く）が義務づけられる。そのためにはコスト高や意識など障害は幾つもある、その対応策をKICTで研究する。KICT内に7階建てのZEBを建設し、モデル実験棟として一般に公開している。健康と親和する建築を求めて韓国では室内空気汚染対策が法制化されており、学校からはじまり、今では500世帯以上の集合住宅で義務づけられている。その厳しさは世界で最高レベルにある。